

全学モジュール科目案内

テーマ名	18 現代の教養		
テーマ責任者	永田 聖二	責任部局	教育学部
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
趣旨	<p>21世紀のグローバル社会を生きる人々には、たんに自己の専門分野の知識を深めるだけでなく、ひろく人文・社会科学や自然科学に関係する基礎知識や研究方法を身につけ、さらに、芸術を理解・表現できるような、真の意味での教養人であることが要求されます。</p> <p>本モジュールでは、モジュールⅠの各科目で人文科学・社会科学・自然科学の基礎知識や研究方法、芸術の理解・表現方法を修得したのち、各自の関心に応じて、それぞれの分野でより深い知識や研究態度を身につけることができるように、モジュールⅡの科目を選択できるようになっています。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の生活や文化に関する諸問題を人文・社会科学の方法を利用して解明できる：Ⅰ「文化と社会」 ・生物の生活や行動に関して学習した基礎知識を私達の生活に応用できる：Ⅰ「自然の科学」 ・芸術を理解・表現できる：Ⅰ「芸術の世界」 ・モジュールⅠで修得した基礎知識や方法を利用して、それぞれの分野に関係するより深い理解と研究態度を身につける：モジュールⅡの各科目 ・教養教育の全体目標を理解し、各科目の履修を通して関連科目の達成をめざす ・以上を通して、物事を多面的に捉え広い視野から考える能力を身につける 		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>特定の知識や観点到に偏らず、ものごとに対する広範な知識とそれを考察するための多面的な研究態度を身につけ、現代を生きる教養人をめざしてください。</p>		

	科目名	担当者名	概要	キーワード
モジュールⅠ	文化と社会	勝俣 隆 飯塚 知敬 福留 真紀	人文科学・社会科学の両面から、人間の生活と文化に関する諸問題を考察する。	文学、 哲学・倫理学 日本史
	自然の科学	中西 弘樹	(副題：生物の生活) 生物の生活の基礎である体内時計や生物の行動について学び、私達の生活に応用できる考えを身につける。	鳥の渡り、回遊、体内時計、動物行動学、開花季節
	芸術の世界	三上 次郎	現代人の教養として、芸術を理解・表現するための基礎を学ぶ。	音楽史 美術史
モジュールⅡ	ことばの世界	山本 建雄	文学を題材にして、現代に生きる人間の諸問題を考察する。	文学
	人間と社会	永田 聖二	わたしたちが生活している資本主義経済システムの機構を理論的に考察する。	スミス、 リカードウ、 マルクス、 スラッフア
	暮らしと科学	赤崎 眞弓	わたしたちの暮らしのなかで生じる諸問題を考察する。	衣食住に関わる日常生活 教育、人間関係 健康、環境

数と自然	石川 秀明	ものごとを論理的に考察・推論するための数理的な手法を学ぶ。	数学、代数学、線形代数学
音楽	宮下 茂	声楽曲及びオペラ作品等を取り上げ、音楽作品を鑑賞・理解するための基礎を学ぶ。	音楽、オペラ
美術	針貝 綾	古典絵画を取り上げ、美術作品を鑑賞するための基礎的な手法を学ぶ。	美術史、西洋美術、鑑賞

全学モジュールの目標 キーワード、および授業 編成の視点との対応	技能・表現						知識・理解			態度・志向性				※授業編成の視点			
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	A	B	C	D
	自主的探究	批判的思考	自己表現	行動力	日本語コミュニケーション力	英語コミュニケーション力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	社会貢献意欲	学問を尊敬する態度	自己成長志向	相互啓発志向	哲学的な切り口	歴史・略史を扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブラーニングの活用
文化と社会	◎	◎	○	○	○		◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	
自然の科学	○	○	○	○	○		◎	◎	◎		◎	○	◎		○	◎	
芸術の世界	◎	○	◎				◎	◎			○			○	◎		
ことばの世界	◎	◎	○		○		◎	◎	○	◎	◎	○	○	○	○	◎	
人間と社会	◎	◎	○	○	○		◎	○	○	◎	◎	◎	○	○	○	◎	
暮らしと科学	◎	◎	○	○	○		○	◎	◎	○	○	◎	◎	○	○	◎	○
数と自然	◎	◎	○				◎		○		◎	◎	○		○	○	
音楽	◎	○	○	○	○		◎		○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	
美術	◎	◎	◎		○		◎		◎		◎	◎	○		◎		

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目